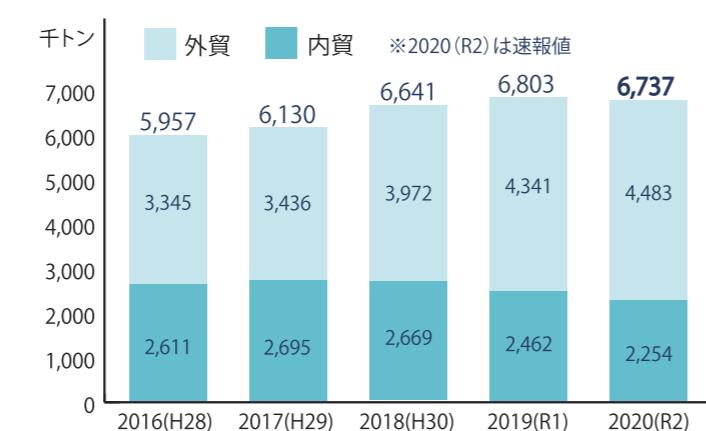


取扱貨物量 673万7千トン

2020年(令和2年)の取扱貨物量	
輸出	32万8,190 トン (対前年比 115.1%)
輸入	415万4,662 トン (対前年比 102.4%)
移出	28万7,098 トン (対前年比 82.2%)
移入	196万7,216 トン (対前年比 93.1%)
合計	673万7,166 トン (対前年比 99.0%)

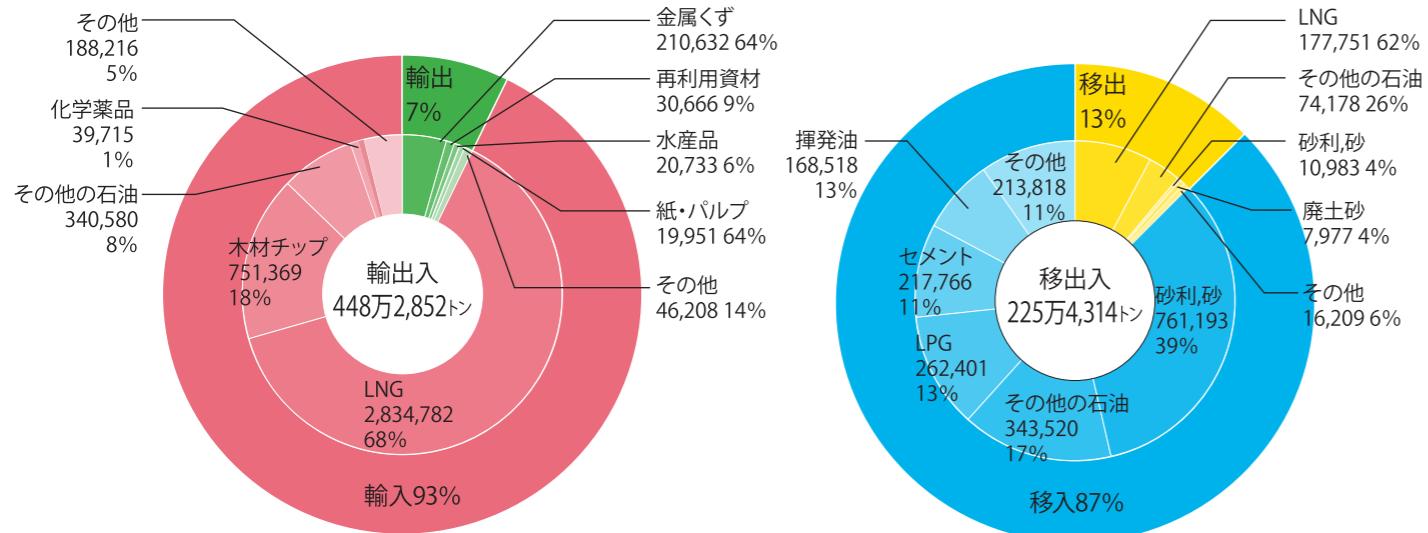
■ 貨物量5年間の推移



2020年(令和2年)の取扱貨物量は、主要貨物である木材チップが減少したものの、過去最高を更新したコンテナ貨物や火力発電用燃料にも使用されるLNG(液化天然ガス)、また東南アジアなど遠方国に輸出されている金属くずの取扱量が増加しています。

さらに、バイオマス発電所や港湾区域内での大規模洋上風力発電施設の建設計画が進んでおり、今後は発電用燃料や発電部材などの利用増が期待されます。

■ 2020年(令和2年)取扱貨物 品目構成 速報値(単位:トン)



今後も「石狩湾新港」をよろしくお願いします!

2020年度は新型コロナウィルス感染症拡大状況を踏まえ、関係企業への訪問や毎年東京で開催している説明会を見合わせるなど、皆様に石狩湾新港の情報を届けすることができませんでした。

今後、コロナ禍の状況を見ながら、時代に即した様々な機会をとらえて、本港の情報を皆様にお届けします。

MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI



2021 3
Vol.52

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>

外貿コンテナ取扱個数 過去最高を更新

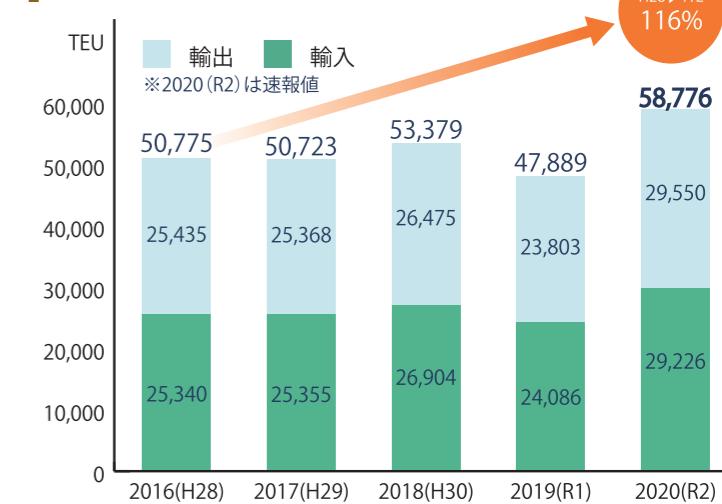
外貿コンテナ取扱個数 58,776TEU

区分	2020年(令和2年)の外貿コンテナ取扱量		
	合計	輸出	輸入
取扱個数(TEU)	58,776 (対前年比122.7%)	29,550 (対前年比124.1%)	29,226 (対前年比121.3%)
実入コンテナ	37,411 (対前年比117.5%)	10,175 (対前年比121.5%)	27,236 (対前年比116.1%)
空コンテナ	21,365 (対前年比133.2%)	19,375 (対前年比125.6%)	1,990 (対前年比321.5%)
貨物量(トン)	299,489 (対前年比118.3%)	122,072 (対前年比128.7%)	177,417 (対前年比112.0%)

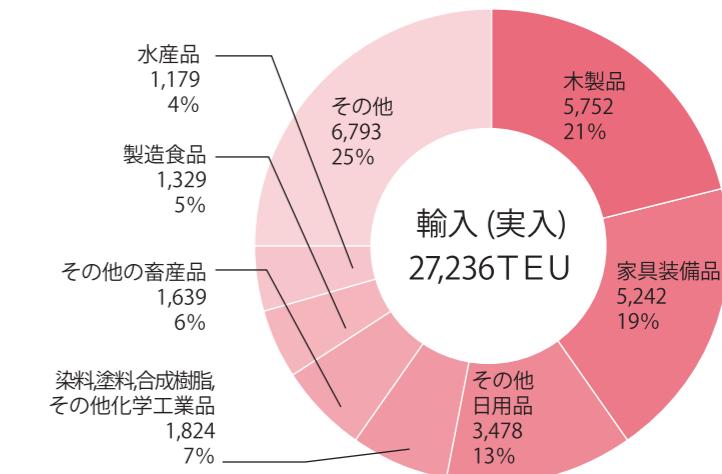
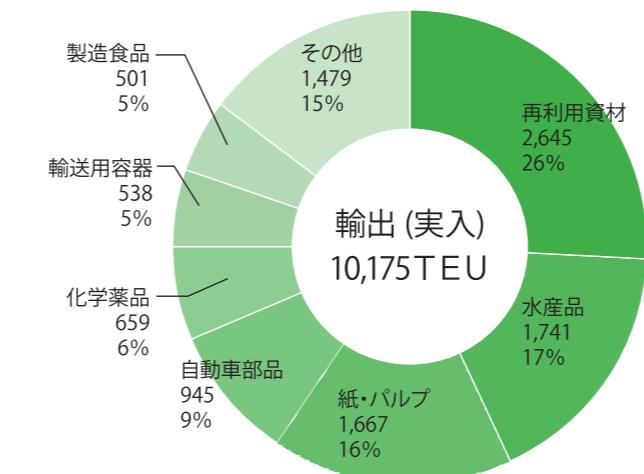
2020年(令和2年)の取扱いは、家具装備品や日用品の輸入が増加したほか、取扱いが過去最多である畜産品など、外貿コンテナ取扱個数は過去最高を更新しました。

コンテナヤードの拡張をはじめ、冷凍冷蔵コンテナ用コンセントの増設やガントリークレーン2号機の供用など、利用者のニーズに応える取り組みを行ってきた本港では、昨年、南星海運(株)によるコンテナサービスが開始しており、2021年3月現在、4船社週3便の外貿定期コンテナ航路が就航しています。

外貿コンテナ取扱個数5年間の推移



2020年(令和2年)外貿コンテナ貨物 品目構成 速報値(単位:TEU)



増加しているコンテナ貨物の特徴は？

昨年、石狩湾新港のコンテナ取扱個数は過去最高を更新しました。併せて近年は、冷凍冷蔵コンテナ貨物の取り扱いが増加しており、特に畜産品（※）は10年前の3倍を超える取扱量（図1）となっています。

※畜産品…ここでは主に牛肉・豚肉・鶏肉・羊肉など食用肉のことを指す。

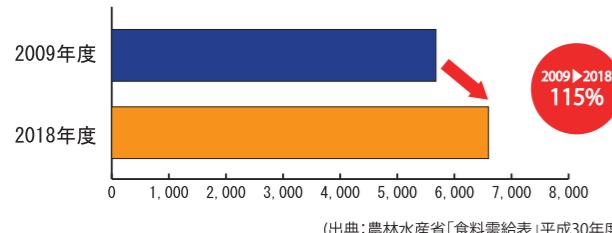
今回は、この畜産品に着目し、動向を調べました。

まず、国の統計調査では食肉の消費量全体が増加している（図2）ことがわかります。

また、新聞報道等によると、北海道内での大手焼肉店の新規開店や量販店での需要増などから、豚肉・鶏肉の売り上げが好調なことがわかりました。その道内の畜産品の輸入量ですが、港湾統計によると本港が道内全体の半数以上（図3）となっています。

道内の外貿コンテナ取扱量に対する本港のシェアは7%ですが、一方で、なぜこれほどまでに本港の畜産品の輸入が多いのか、関係企業の皆様に伺うことにしました。

（図2）食肉の消費量10年比較（単位：1,000t）



調査

なぜ石狩湾新港は畜産品の取扱いが道内最多なのか？

本港背後の石狩湾新港地域（以下、新港地域）には、水産品や畜産品などの冷凍冷蔵貨物を保管する営業倉庫が集積しており、その庫腹量（※）は道内最大級です（図4）。そこで、新港地域に立地する、国内有数の営業冷凍冷蔵倉庫事業者様にお話しを伺いました。

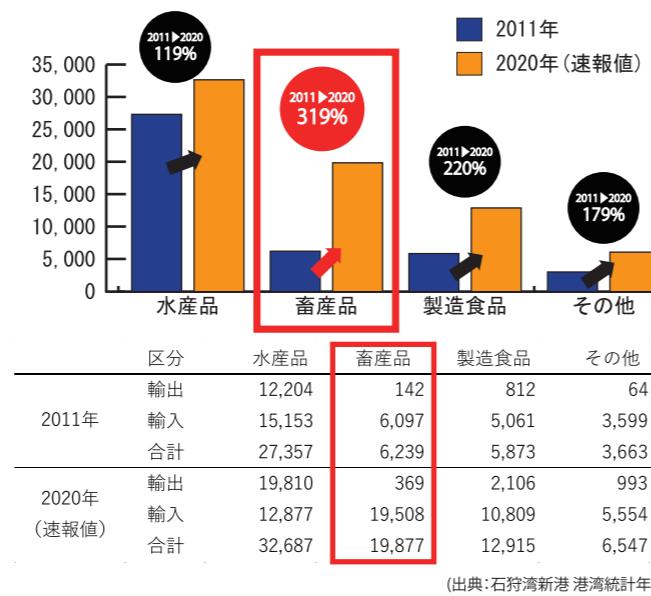
※庫腹量…倉庫の保管容積1m³あたりを400kgで換算したもの

貴社では外国産の畜産品を保管していますか？

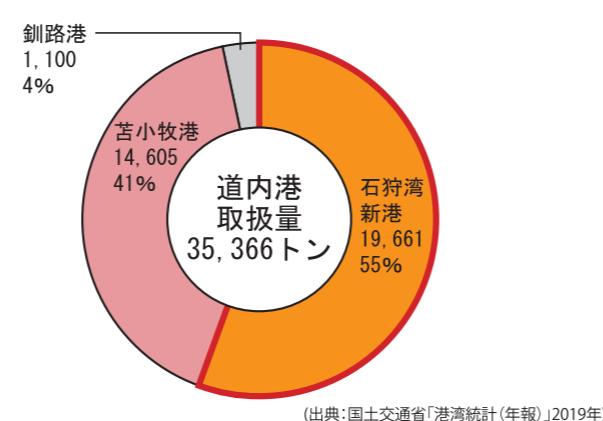


平成6年の立地当初は水産品の取扱いが約8割でしたが、近年は外食産業や量販店、コンビニ向けの外国産の豚肉・鶏肉など畜産品の取扱いが多くなり、現在は倉庫の約4割を占めています。

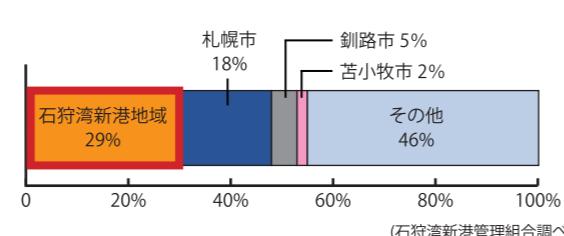
（図1）冷凍冷蔵コンテナ貨物内訳 10年比較（単位:t）



（図3）畜産品の輸入量比較（単位:t）



（図4）北海道の営業冷凍冷蔵倉庫の庫腹量構成 合計1,070,536トン



外食産業や量販店向けとなると、大消費地である札幌向けが多いですか？



石狩湾新港



そうですね。新港地域は札幌に近く、陸上輸送費を抑えることができます。



新港地域では倉庫が動物検疫（※）の指定を受けているので、検査後、そのまま保管が可能な効率の良い倉庫が多いですね。輸入した畜産品の取扱いに都合が良いです。

※動物検疫…伝染病等の侵入から自国畜産を保護するために輸入動物、畜産物などを対象に行う検査のこと。
水際で伝染病を防ぐという方針から、検査場所は港湾地域に限定されている。

参考) 札幌市中心部までの距離と所要時間	
石狩湾新港地域 発	15 km 30分
苫小牧港周辺 発	75 km 90分

(石狩湾新港管理組合調べ)

札幌への畜産品の輸入（過去・現在）について教えていただけますか？



石狩湾新港



畜産品は以前、本州や苫小牧港で輸入されており、検査後、札幌の倉庫に陸送していました。新港地域に冷凍冷蔵倉庫が立地してからは、その倉庫のそばにある石狩湾新港で輸入し、倉庫にて検査後、そのまま保管する形態に変わりました。



新港地域の冷凍冷蔵倉庫の立地が大きな要因ですね。

新港地域の冷凍冷蔵倉庫は庫腹量のほか、利用者のニーズに応える動物検疫の指定や保税の許可を受けている倉庫が集積していますね。

また、昔と比べて石狩湾新港の外貿定期コンテナ航路が増えているなど、利用者にとって港の利便性が向上したことでも要因ですね。

こういった要因がフォワーダーや荷主に認知され、取扱いが増加したと思います。



石狩湾新港

まとめ

石狩湾新港の畜産品の取扱いが道内最多の理由

聞き取りの結果、石狩湾新港で畜産品が取扱われるようになったのは、

冷凍冷蔵倉庫の集積により、畜産品の物流形態が変化したため ということがわかりました。

また、**動物検疫指定など利用者のニーズに応える営業冷凍冷蔵倉庫が集積していること**

外貿定期コンテナ航路の増加など石狩湾新港の利便性が向上したこと などがフォワーダーや

荷主の方々に認知されたことにより、多くの皆様に利用され、畜産品の取扱いが道内最多であることがわかりました。

今後も企業の皆様の声を大切にさらに多くのお客様に利用してもらえるよう、石狩湾新港をPRしてまいります。